

2) 年次毎の造成規模

年次毎の土工量、造成面積、主要な建設機械稼働台数は表-6.1.1(2)に示すとおりである。

表-6.1.1(2) 年次毎の土工量、造成面積、主要な建設機械稼働台数(2年次~6年次)

区分		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
土工量	切土量	866,000	1,335,000	1,533,000	1,674,000	1,350,000
	地山土量 (m <sup>3</sup> ) 盛土換算 土量	842,000	1,338,000	1,525,000	1,643,000	1,306,000
造成面積	切土面積(ha)	21.8	16.0	14.8	17.8	7.2
	盛土面積(ha)	24.3	16.9	39.9	11.3	7.0
	計(ha)	46.1	32.9	54.7	29.1	14.2
主要な建設機械稼働台数	リッパブル(32t)	18	45	30	27	21
	大型ブレーカ	18	45	30	27	21
	バックホウ(1.0m <sup>3</sup> )	48	65	70	38	32
	ダンプトラック(10t)	78	170	130	134	107
	ブルドーザ(21t)	12	25	20	19	16
	タイヤローラ(8~20t)	6	10	10	6	7
	振動タンピング(15~18t)	6	15	10	9	9
	スタビライザ	4	2	13	20	10

注1. 年次のピーク日台数を示す。

2. 1年次は試験施工、7年次は建築工事が主になるため、2年次~6年次について示した。

3) 建設機械投入計画

建設機械に関しては、アスファルトフィニッシャ、大型ブレーカ、汚泥吸排車、クローラクレーン、コンクリートフィニッシャー、コンクリートポンプ車、コンクリートミキサー車、散水車、三点支持杭打機、湿地ブルドーザ、種子吹付機、振動タンピングローラ、振動ローラ、スタビライザ、セルフローダ、タイヤローラ、ダンプトラック、トラック、トラッククレーン、バックホウ、ブルドーザ、マカダムローラ、モータグレーダ、木材破碎機、リッパブルドーザ等の建設機械を投入する予定である。工事に用いる建設機械は周辺環境への影響を低減するため、排出ガス対策型、低騒音・低振動型を積極的に導入することとしている。建設機械稼働計画は、表-6.1.1(3)に示すとおりである。